

J-DESC 第14回マントル掘削WG会合 議事メモ

【日時】令和4年11月17日(木) 10:30-12:00 オンライン Zoom 会合

【参加者】(敬称略):阿部、石橋、稲垣、海野(WG長)、秋澤、片山、柵山、富士原、道林、森下、末廣(アドバイザー)、斎藤、監物、木戸、江橋(J-DESC事務局)

【欠席者】(敬称略):小野、草野、黒田、島、鈴木、針金、山田、山下

1. 第13回会合の議事メモ案の承認及びHP掲載について

- 第13回会合の議事メモ案及びそのHP掲載について承認された。

2. IODP Forum、CIB、ECORD-Japan WS などについて情報共有(事務局)

- ECORD-Japan WS:12月19日に講演要旨締め切り。Keynote Lectureは世話人(森下委員)から道林委員に依頼。プラットフォームにかかわらず、既存・新規のハードロック関連のプロポーザル創発につながる発表を期待。ハワイ沖掘削提案を含め、積極的に応募することにする。
- CIBから既存のプロポーザル提案者に対してレターが発出された。次期海洋科学掘削への移行にあたり、2050 Science Frameworkの科学目標に沿った形の返答レターを年度末までに提出。805-MDPや951-Full1については、プロポーネントと協議しつつ文案を作成し、WGにも共有の上、提出予定。

3. 東北大学知のフォーラム(TFC)プログラム「Frontier of Understanding Earth's Interior and Dynamics」後援依頼について

- 本プログラムへの後援依頼についてWGとして同意。J-DESC理事会で承認を得るため、主催者側から正式発議することとする。

4. 日本学術会議「未来の学術振興構想」に向けた「学術の中長期研究戦略」の応募について

- 「地球システム変動の解明に向けた地殻～マントルのフロンティア科学の推進」という題目で、金沢大学からエントリー済み。
- 「学術振興」と「研究構想」の二つの視点があり、前者は人材育成や学術レベルの向上に資する戦略的ビジョンが求められる。SODの国際性や分野融合性を全面に出し、プロジェクト・ビルドからオンサイトにおける若手人材育成の強みを打ち出すべき。
- 「研究構想」では、これまでの経緯が強みになる。固体地球にとどまることなく、物質・エネルギー循環など、社会に即した柱を打ち出していく必要がある。
- 沈み込み帯の提案との連携・グランドビジョン化も考慮すると、「観測」につながる研究構想が良い。

- ミュオン計測などの素粒子分野との連携は新しい視点であり、本構想でアピールできるポイントの一つ。
- J-DESC がまとめた 2050 Science Framework の日本語版要約は、コミュニティの総意として文言を活用すると良い。準備としては、本 WG の活動実績も記載すべき。
- 日欧 SOD プログラムにおける日本のリーダーシップは、特にハードロック分野で発揮すべきである。日欧プログラムにおいて「ちきゅう」を活用し、米国コミュニティと連携する上でも、ハードロック分野が重要である。
- 12/16 締め切りの本提案書作成に向けて、WG 長・森下委員・マントル掘削プロモーション室を中心に執筆を進め、WG メンバーに回覧する。「学術振興」については、末廣アドバイザーに助言を頂く。

5. その他

- 第 14 回セミナーは、若手を含む発表候補者との調整により可能であれば、年内に開催する。
- 次回の WG 会合は、2023 年 1 月下旬～2 月にかけて実施予定。

//